

**情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU部会
衛星・科学業務委員会(第45回)
議事概要(案)**

1 日時

令和7年8月25日(月)～29日(金)【メール方式による検討】

2 議事

- (1) 衛星・科学業務委員会(第44回)議事概要(案)について
- (2) ITU-R SG7関連会合(2025年3月)の報告書(案)について
- (3) ITU-R SG7関連会合(2025年9月)への日本寄与文書(案)について
- (4) ITU-R SG7関連会合(2025年9月)の外国等寄与文書の審議表(案)について
- (5) ITU-R SG7関連会合(2025年9月)の対処方針(案)について
- (6) その他

3 配付資料

- 資料 衛・科-45-1 衛星・科学業務委員会(第44回)議事概要(案)
- 資料 衛・科-45-2 ITU-R SG7関連会合(2025年3月)の報告書(案)
- 資料 衛・科-45-3 ITU-R SG7関連会合(2025年9月)への日本寄与文書(案)
- 資料 衛・科-45-4 ITU-R SG7関連会合(2025年9月)の外国等寄与文書の審議表(案)
- 資料 衛・科-45-5 ITU-R SG7関連会合(2025年9月)の対処方針(案)

- 参考資料1 ITU-R SG7関連会合(2025年9月)の開催案内
- 参考資料2 ITU部会決定第6号
- 参考資料3 衛星・科学業務委員会 構成員名簿
- 参考資料4 WRC-27議題一覧

※ 下線がある配付資料は不開示情報を含むものがあるため、出席者限りの取扱。

4 出席者(敬称略、順不同)

主 査:加藤 寧

構成員:藍澤 志津、新 博行、伊東 宏之、今村 浩一郎、大嶋 由実、岡崎 彰浩、河野 宇博、
佐藤 祐子、下奥 あゆ美、菅 瑞紀、高久 義行、中川 勝広、中間 弘、廣瀬 幸、
山條 朋子

5 議事概要

- (1) 衛星・科学業務委員会(第44回)議事概要(案)について
資料 衛・科-45-1に基づき、衛星・科学業務委員会第44回会合の議事概要(案)の確認を行った。特段意見はなく、構成員から承認を得た。

(2) ITU-R SG7関連会合(2025年3月)の報告書(案)について

資料 衛・科-45-2に基づき、ITU-R SG7関連会合(2025年3月)の報告書(案)について検討を行った。特段意見はなく、構成員から承認を得た。

(3) ITU-R SG7関連会合(2025年9月)への日本寄与文書(案)について

資料 衛・科-45-3に基づき、ITU-R SG7関連会合(2025年9月)への日本寄与文書(案)の検討を行った。次の議論の後、構成員から承認を得た。

資料 衛・科 45-3-1 寄書本文(7B/J-1)

NTTドコモ Table 2のSystem Kに示される受信アンテナ温度2674Kは他のシステムに比較してかなり高いが、値に間違いはないか。

JAXA System Kのみ、受信システム雑音温度の規定点がアンテナ出力
廣谷氏 端となっていたことから、他システムの値と相違があり、受信機入力端を規定点とする雑音温度へ修正する。
合わせて、受信システム雑音温度の規定点が受信機入力端を規定点とすることを明確化するための注記を行う修正提案を行う。

資料 衛・科 45-3-1 寄書本文(7B/J-2)

NTTドコモ 一 部 に つ い て 、 Earth station receiver noise
新構成員 temperatureという項目名を、Earth station receiving system noise temperatureと修正をされている。両者は、定義上別項目になるのか。1.1章の最後に、前者の定義はなされている。仮に別定義ということであれば、1.1章にEarth station receiving system noise temperature の定義は不要なのか。

JAXA 「Earth station receiving system noise temperature」
福原氏 は「Earth station receiver noise temperature」と同じ項目である。同時に日本から寄与文書を入力する予定のITU-R新勧告草案SA.[2.0 GHZ SRS & EESS CHAR] でも同様の修正提案をすること、AP4 では「receiving system noise temperature」と示されていること、受信システムの雑音温度であることが明確に直感的に分かりやすいと考えられることから、添付のとおり、一部の表のみではなく資料全体での修正を行う。

資料 衛・科 45-3-1 寄書本文(7B/J-3)

NTTドコモ 新構成員 WP 4Cに対して、DC-MSS-IMTシステムのSystem 3の不要発射特性について質問をする提案をされていると理解。WP 7Bでこの特性を使った検討をするわけではないと思うが、この質問を投げかける背景は何か。WP 7Bとして質問をする何らかの理由を記載する必要があると考える。

上記に関連して、Figure 1で、ERIP1, 2, 3の特性が周波数に連続して描画されている。引用頂いている式を見ると、EIRP1, 2, 3はそれぞれ当該周波数 f に対して、第1次隣接、第2次隣接、第3次隣接の不要発射のEIRPレベルを表す式と思われる。Figure 1のように周波数に連続して描画して示すのは違和感があるが、Figure 1の描画は正しいか。

JAXA 橋本氏 一点目について、WP7Bとして検討をするわけではないのは御理解の通りだが、WP7Bとしては、共用検討に使用するWP7B担当範囲の業務の特性の提示等を行っている。WP4CでまとめているDC-MSS-IMTの特性次第では、既にWP7BからWP4Cに送付した特性が十分かどうかをWP7B側で改めてレビューする必要があり、今後WP4Cで行われる検討に対してWP7B側からコメントすることも想定される。これらのWP7Bが関与する観点において、WP4Cの文書中の情報で明確でない点の明確化を求めることは通常のリエゾン交換で行われることと考えている。

二点目については、指摘を踏まえてFigure 1及び関連するテキストを削除する。一方で、 f の定義が曖昧であることは指摘した方がよいため、その旨の文章を追加する。

NTTドコモ 新構成員 f についてはその定義が不明瞭ということだと理解した。”However, the definition of “ f ” is not provided in the current version of this working document.”という英文にあるが、is not provided ((定義が)提供されていない)ということではないと考えるため、当該センテンスは削除するか、修正を頂きたい。

削除されたFigure 1の直前のパラグラフの Whetherで始まる以下の英文の構成が複雑である。複数の文で構成する等の改善は可能か。

削除されたFigure 1の直後のWP 7B requests で始まるパラグラフは、直前に記載されている質問内容をまとめているのだと思う。当該パラグラフの冒頭にIn summaryというような表現を補うのは如何か。

JAXA 1点目について、指摘の通り、正確には”f”の定義が不明確という
橋本氏 状況であり、当該テキストをHowever, the definition of ”f”
is ambiguous in the current version of the working
document.と見直した。
2点目について、指摘を踏まえ、複数の文に修正した。
3点目について、指摘のとおり、In summaryを追加した。

資料 衛・科 45-3-1 寄書本文(7C/J-1)

NTTドコモ 寄与文書で”spilt over the horizon”という表現がある。図を
新構成員 拝見するに、地平線を超えて漏れ出る電波というイメージで、
”spill over the horizon”という英語ではないか。
JAXA 地平線を超えて漏れ出る電波というイメージの通り。
岩名氏 ”spilt over the horizon” は ”side lobe emissions in ...
band” を後置修飾する過去分詞として使用している。

資料 衛・科 45-3-1 寄書本文(7C/J-2)

NTTドコモ ①Annex 3にて、P.386の勧告が参照されているが、当該勧告
新構成員 番号は存在しないと思われるが、P.368の誤記ではないか。
②Annex 3及び6のリオメータのアンテナ高、Annex 6のLMS
のアンテナ高が示されていないが、いくつで評価されたか。
③Annex 3及び6のタイトル、イントロで608-614 MHzの周波
数が引用されているが、この周波数での評価結果は示されてい
ない。タイトル、イントロは適切か。
ARIB ①指摘のとおり、P.368の誤記である。修正する。
横山氏 ②リオメータのアンテナ高は、寄書において“the study
assumed that the antenna of the riometer is a half-
wavelength dipole antenna placed horizontally at a
height of one-quarter wavelength above the
ground.”となっている。例えば、30MHz帯では2.5mである。
LMSのアンテナ高は、勧告M.1808-1にあるアンテナ高を用いて
いる。
③タイトル、イントロは誤りでない。前回WP7C会合で、1つの無線
業務に1つのAnnexを設けることとされており、タイトルとイント
ロは、この1つの無線業務全体に対するものである。他方、今回の
日本寄書では、リオメータが使用している帯域に限定した計算結
果を入力している。リオメータは608-614 MHzの周波数を使用
しないため、日本寄書では取り上げていない。これがタイトル及び

イントロでは610MHz帯を含むのに、寄書で入力した共用検討に610MHz帯がないことの理由である。

資料 衛・科 45-3-1 寄書本文(7C/J-3)

NTTドコモ 新構成員 Attachment 1 to Annex 1に”the Yamagawa solar spectrometer ” という表現がある。”Yamagawa”というのは日本の地名のことか。WP 7Cのメンバーに通じる表現か。

ARIB 横山氏 Yamagawa solar spectrometer は、NICTが鹿児島県山川町に設置し運用している太陽電波観測システムのことである。WP7Cが取りまとめたITU-R報告RS.2456にもYamagawaの情報が収録されているが、固有名詞らしさを強調するため、”the Yamagawa Solar Spectrometer”と修正する。

(4) ITU-R SG7関連会合(2025年9月)の外国等寄与文書の審議表(案)について

資料 衛・科-45-4に基づき、ITU-R SG7関連会合(2025年9月)への外国等寄与文書の審議表(案)の検討を行った。特段の意見はなく、構成員から承認を得た。

(5) ITU-R SG7関連会合(2025年9月)の対処方針(案)について

資料 衛・科-45-5に基づき、ITU-R SG7関連会合(2025年9月)への対処方針(案)の検討を行った。特段の意見はなく、構成員から承認を得た。

(6) その他

事務局から、外国等寄与文書の審議表については、別途メールで検討する旨を報告した。

以上